

短報

後楽園(岡山市)で新しく見出されたコケ植物

田村英子¹・西村直樹²

New additions to the Bryophyte flora of Korakuen Park (Okayama City)

Eiko TAMURA¹ and Naoki NISHIMURA²

Abstract: Seven mosses and ten hepatics are newly found and added to the Bryophyte flora of the Korakuen Park, Okayama City, S. W. -Honshu, Japan. Among the species, *Pallavicinia lyellii* and *Monosolenium tenerum* are noteworthy.

1. はじめに

畦ほか(1995)は、1995年に後楽園のコケ植物を調査し、セン類の21科49属62種、タイ類の12科14属17種とツノゴケ類の1科2属2種を報告している。この度、著者の一人、田村は、2009年から2012年の間、後楽園のコケ植物を観察し、新たにセン類7種とタイ類10種が生育しているのを確認したので報告する。この中で、ヤハズゴケ(*Pallavicinia lyellii*)は稀産の種として知られ、またヤワラゼニゴケ(*Monosolenium tenerum*)は環境省第4次レッドリストにおいて、絶滅危惧II類に指定されている種である。

2. 新たに追加されたコケ植物の種

学名と和名、および科の配列は、平凡社の「日本の野生植物 コケ」(岩月編 2001)を参照した。学名、和名と標本番号(略号のetは採集者、田村英子を示す)に続き、生育場所と、必要に応じてノートを付した。使用した標本は、岡山理科大学自然植物園の標本庫に保管されている。なお、岡山県野生生物目録2009(岡山県 2009)にまだ掲載されていないために、県新産となる種には学名の前に*を付した。

蘚類

Polytrichaceae スギゴケ科

Pogonatum neesii (Mull.Hal.) Dozy ヒメスギゴケ et-86, -347, -627. 後楽園からは、従来、スギゴケ科セン類として、ナミガタタチゴケ(*Atrichum undulatum*)とウマスギゴケ(*Polytrichum commune*)の2種が知られていた。岡山の市街地にしばしば見出されるニワスギゴケ属の種としてはコスギゴケ(*Pogonatum inflexum*)があるが、後楽園ではコスギゴケの生育は確認されていない。花葉の池南側、ヤブランの法面(土上)に生育。

Dicranaceae シッポゴケ科

Campylopus umbellatus (Arnell) Paris フデゴケ et-1640. 250年碑周辺の土上に生育。

Grimmiaceae ギボウシゴケ科

Racomitrium japonicum (Dozy & Molk.) Dozy & Molk. エゾスナゴケ et-2509. 造園業者が裸地を被覆するために移植したもので延養亭近く曲水べりの土上に生育。

1. 〒702-8035 岡山市南区福浜町 Fukuhama-cho, Minami-ku, Okayama-shi, Okayama-ken 702-8035, Japan.

2. 〒700-0005 岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学自然植物園 Botanical Gard., Okayama Univ. Sci., 1-1, Ridai-cho, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama-ken 700-0005, Japan.

Bryaceae ハリガネゴケ科

* *Epipterygium tozeri* (Grev.) Lindb. アカスジゴケ et-753, -1449, -1912. 花葉の池南側のヤブランや、花交の池南側リュウノヒゲの法面(土上)等に生育.

Amblystegiaceae ヤナギゴケ科

Leptodictyum riparium (Hedw.) Warnst. ヤナギゴケ et-69, -1636. 本種は、日本において、北海道から鹿児島県にまで分布することが知られている(Kanda 1975). 岡山県からは、地職(1999)による県中部、旭川沿いの1カ所と、西村・川合(2007)による高梁川沿い、中・下流域の4カ所の報告がある. 岡山県下では、人家の近くで、水質が比較的良くない箇所によく生育している. 後楽園では、曲水の底(玉石や石垣上)や、貯水池の水中(石垣上)に生育.

Brachytheciaceae アオギヌゴケ科

Rhynchostegium pallidifolium (Mitt.) A. Jaeger コカヤゴケ et-346. 藤棚南側の法面(土上)に生育.

Hypnaceae ハイゴケ科

Taxiphyllum alternans (Cardot) Z. Iwats. コウライイチイゴケ et-340, -761, -1411, -1634. 貯水池の水際(石垣), 曲水や池周辺の土上等に生育する. 本種は岡山県の旭川や高梁川の中・下流域で細かい土砂が堆積している箇所に、しばしば生育している(地職 1999, 西村・川合 2007).

タイ類**Calypogeiaceae ツキヌキゴケ科**

Calypogeia tosana (Steph.) Steph. トサホラゴケモドキ et-1774, -1982, -1983. 花葉の池南側ヤブランの法面(土上)に生育.

Geocalycaceae ウロコゴケ科

Chiloscyphus profundus (Nees) J.J. Engel & R.M. Schust. (= *Lophocolea heterophylla* (Schrad.) Dumort.) トサカゴケ et-747, -2122. 花葉の池南側のヤブラ

ンや、花交の池南側リュウノヒゲの法面(土上)等に生育.

* *Heteroscyphus argutus* (Reinw., Blume & Nees) Schiffn. ウロコゴケ et-606, -1191, -1438, -1876. 花葉の池, 花交の池, 水源地や曲水近くの土上に生育.

Lejeuneaceae クサリゴケ科

Cololejeunea japonica (Schiffn.) S.Hatt. ex Mizut. ヤマトヨウジョウゴケ et-1455, -2002. 唯心山のサツキの株元(樹幹上)に生育.

Cololejeunea raduliloba Steph. ナガシタバヨウジョウゴケ et-1978. 唯心山ふもとの樹幹に生育.

Fossombroniaceae ウロコゼニゴケ科

* *Fossombronia foveolata* Lindb. var. *crustula* (Austin) R.M.Schust. ウロコゼニゴケ et-1820, -1824, -1857. 梅林の土上に生育.

Pelliaceae ミズゼニゴケ科

Pellia endiviifolia (Dicks.) Dumort. ホソバミズゼニゴケ et-724, -741, -1633. 貯水池の水中(石垣上)に生育.

Pallaviciniaceae クモノスゴケ科

* *Pallavicinia lyellii* (Hook.) Carruth. ヤハズゴケ et-597, -1614(det. by T. Furuki), -1639 (det. by T. Furuki). 水車近くの水際, 石垣の間の腐植土上に生育(図1, 2). 関東以西の湿った地面上に生育する稀産の種として知られている(岩月編 2001).

Monosoleniaceae ヤワラゼニゴケ科

* *Monosolenium tenerum* Griff. ヤワラゼニゴケ et-1625(det. by T. Furuki), -1862, -2287. 本種は、2012年に公表された環境省第4次レッドリストの植物II(蘚苔類)において絶滅危惧II類(VU)に選定されている種



図1. 水際で、石垣の石の間の腐植土上に生育するヤハズゴケ *Pallavicinia lyellii* (矢印).



図2. ヤハズゴケ *Pallavicinia lyellii*.



図3. 水が流れ落ちる傍らに生育するヤワラゼニゴケ *Monosolenium tenerum*. 壁面下部のやや黒みがかった群落(矢印)がヤワラゼニゴケで、壁面上部の緑色の群落は、トサノゼニゴケ.



図4. ヤワラゼニゴケ *Monosolenium tenerum*.

である。岩月編(2001)によると、「畑や人家付近の富栄養な湿った土上、また植木の圃場や植物園の温室に生育」と述べられている。後楽園では、花葉の滝の水際で、しばしば水に濡れる石の壁面上に生育していた(図3, 4)。岡山市内では、さらに、半田山植物園でも、降雨時に水が流れる湿土上に生育しているのを確認している(et-1433, det. by T. Furuki)。

Ricciaceae

Riccia huebeneriana Lindenb. コハタケゴケ et-1816. 出島周辺の土上.

* *Riccia nipponica* S.Hatt. ex Shimizu & S.Hatt. カンハタケゴケ et-1864. 井田の土上.

3. 謝辞

本報告の作成に際し、千葉県立中央博物館の古木達郎博士には、タイ類の一部の種を同定・確認していただきました。また、後楽園の関係者の方には、採集の許可をいただきました。記して、感謝します。

4. 引用文献

- 地職 恵(1999). 岡山県におけるフロウソウとヤナギゴケの新産地. 岡山コケの会ニュース 15: 21.
- 岩月善之助(編)(2001). 「日本の野生植物 コケ」. 192 pls., 355 pp. 平凡社.
- Kanda, H. (1975). A revision of the family Amblystegiaceae of Japan I. J. Sci. Hiroshima Univ., ser. b, div.

2, 15: 201-276.

378 pp.

西村直樹・川合啓二(2007). 高梁川(岡山県)水辺の
蘚苔類目録. *Naturalistae* 11: 67-74.

畦 浩二・立石幸敏・西村直樹(1995). 後楽園(岡山
市)の蘚苔類. 岡山理科大学自然科学研究所研究

岡山県(2009). コケ植物. 岡山県生活環境部自然
環境課制作, 「岡山県野生生物目録2009」: 365-

報告 21: 21-25.

(2012年12月10日受理)